

# 平成30年度「県立学校による地域との協働推進事業」実施報告書

番号	32	学校名	吉野高等学校
----	----	-----	--------

## 1. 取組名 筏流しイベント

## 2. 活動内容

平成30年11月8日(木)、吉野高校生と地元地域の住民、そして本年度は吉野北小学校3年生が”筏”を協働して作製し、吉野川に流した。吉野川は、かつて「清流・よしのがわ」と呼ばれ、吉野川で獲れたアユは、”サクラアユ”と呼ばれ重宝された。しかしながら、上流にダムができ、また河川汚染の影響を受け、年々アユの漁獲量が激減し、一時、吉野高校付近でアユの竿を立てる人影が消えたこともあった。ところが、近年、地元地域の方々の努力もありアユが戻ってきたと言われている。実際、往年の景観には遠く及ばないが、アユ竿が立つ姿が多く見られ吉野川が蘇りつつある。

そこで、吉野高校生と地元地域の住民が、今後も継続して吉野川の環境浄化、保全を願い昨年度に引き続き筏を作製する「吉野川筏流しイベント」を実施した。当日は、地元の小・中学校にも声をかけ、地元の宝“よしのがわ”を再認識するひと時とした。吉野高校は、主に吉野スギ丸太材の買い付け、運搬、そして当日の筏作製の中心的な役割を果たした。

(生徒の感想)

本年で3回目の参加。筏作りも安定してきたので、昔のように長くつなげた筏を作成してみたい。

(地域の感想)

吉野川の素晴らしさを再認識できるイベント。昔の木材がどのように運ばれたかを写真だけではなく、実際に体験できとても貴重な経験ができた。来年度は暖かい時期に実施して、子どもたちにも体験してほしい。



## 3. 成果と課題

本年度は夏に実施を予定していたが、行事が重なり秋の実施となってしまった。しかし、地元吉野北小学校3年生に参加していただき、当日は、約50名の参加があった。実施時期の検討と実施までの情宣に課題を残す結果となった。



## 4. 次年度に向けて

来年度も実施を予定しており、9～10月の実施に向けて準備の段階で地元小中学校との連携を図る予定である。

## 平成30年度「県立学校による地域との協働推進事業」実施報告書

番号	33	学校名	十津川高等学校
----	----	-----	---------

### 1. 取組名 十津川村交流・活性化プロジェクト

### 2. 活動内容

十津川村で行われる祭り等にボランティアとして参加した。主に祭りの会場設営、運営補助、祭り後の清掃活動に取り組んだ。また、村の文化祭では司会も行った。村内の各地域で行われる祭りに積極的に参加し、村内の方々と交流をしながら、祭りを盛り上げた。さらに、12月には、生徒会役員を中心に村内の4つの保育所に行き、保育所の子どもと交流した。

### 3. 成果と課題

祭りのボランティア活動には有志を募って参加した。夏期休業中にも関わらず、多くの生徒が積極的に参加し、ボランティア活動の意識を感じることができた。さらに、生徒はボランティアの中で、指示されたことに対応するだけでなく、自分たちにできることを自発的に考えて行動することができていた。また、ボランティア活動の後、村内の方々に感謝の言葉をいただき、自己有用感も高めることができた。

課題として、現状のボランティアは、村から依頼を受けた行事的なことへのサポートのみが中心となっていることが挙げられる。今までの活動は引き続き行いつつ、新たな取り組みを考えていく必要がある。



### 4. 次年度に向けて（担当者の感想を含む）

自分に自信をもてていない生徒が多くいる本校の生徒においては、ボランティア活動を通じて、感謝される機会が多くあったことで、自己有用感を高めることができ、一定の教育効果があったと考える。また、高齢者の方が多い村内において、村内の行事に高校生が参加することで、村の活性化にも貢献できたと認識している。

来年度は今年行った祭りへの参加や保育所訪問等だけでなく、生徒が自分たちにできること・村の活性化に繋がることを考える機会をもち、生徒が自ら考えたボランティアを実施していきたいと考えている。